

急落する米国株式市場の行方

ポイント① 米国株は僅か13日で2割安

新型コロナウイルスの世界的拡散に原油暴落も加わって、米国株式市場は短期間で急落しています。3月9日現在、S&P500株価指数は年初来で▲15.0%、そして、本年2月19日に付けた史上最高値(終値ベース)の3,386ポイントからは僅か13営業日で▲18.9%もの下落となっており、調整局面入りのメドとされる▲20%に迫っています。

ポイント② VIX指数は54ポイントに急騰

図1に見られるように、市場参加者の不安度を測るとされるVIX指数は3月9日に54ポイントまで跳ね上がり、2008年のリーマンショック時に次ぐ高水準となりました。そこで、リーマンショック時を振り返ってみると、VIX指数のピークは株価が暴落した2008年10月頃だった一方、最終的な株価の安値は翌2009年3月に付けていました。足元の米国株式市場は大きく下がったとはいえ、史上最高値から僅か13営業日しか経過しておらず、日柄調整(時間的な調整)が十分でない可能性があると考えています。

ポイント③ PERは過去平均以下に

一方、株価の割安度の尺度とされるPERを見ると、最近の急落によって1990年以降の平均値を下回ってきました(図2)。足元の水準は15.9倍(2020年予想ベース)となっており、一時の20倍よりは低下し、少なくとも割高感は無くなったと思います。

当面の米国株式市場は、PER等の割安度指標に支えられながらも、不十分と考える日柄調整を進めていく可能性が高いと考えています。割安感は出てきましたが、今しばらくは、変動性が高い、不安定な相場が続く可能性を認識しておく必要がありそうです。

図1：米国株式とVIX指数の推移

期間：1990年1月5日～2020年3月9日、週次



※VIX指数：株価の先行きにどれほどの振れ幅を投資家が見込んでいるかを示す「株価変動率指数」のうち、米国株を対象にした指数のこと。「恐怖指数」とも呼ばれています。通常、株安が懸念される局面で上昇し、20を超えると不安心理が高まっていると解釈されています。

(出所)Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

図2：米国株式市場のバリュエーションの推移

期間：1990年1月末～2020年3月(9日)、月次



※PER(株価収益率)はS&P500ベースのBloomberg予想

(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。